

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第22号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《 広報宣伝部 》

発行日：2024 年 3 月 第 22 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど

上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

地域福祉のこころでケアの文化を拓く

第28回全国地域福祉施設研修会（東海地区）は「福祉文化」というテーマで開催されました。福祉文化とは何かということを実践から哲学的に学び・考える研修会でした。よし！次は行動です。

日本の社会は、福祉を制度と運動として捉えて取り組み、必要な制度の整備を進めてきました。しかし、制度にはどうしても隙間の問題が生まれるため、制度による福祉ではすべての福祉課題を解決することができません。

福祉という言葉は「人々の幸福」という意味なので、幅広くさまざまな分野の人がつながり、知恵や力を結集することが大切と語られました。福祉文化とは、いわゆる「制度や技術論」ではなく、多様な人が手をつなぐことによって実現する「人権尊重の社会」の創造ではないでしょうか。それは、「人を人として大切にすることがあたりまえの社会」をめざす私たちセツルメントを源流とする地域福祉施設のアイデンティティと共通しています。

200X年、障がいのある子どもが公園で母と遊んでいると、そこにいた別の親がいたずらをする自分の子どもに「悪いことをするとあの子のようになるよ」と言ったことに深く傷つき、外に出かけることができなくなりました。その話を聞いた小掠昭 元事務局長による「町中の障がいのある子どもを公園に集めよう」という地域の関係機関や住民への呼びかけにより「子ども元気まつり」が誕生しました。その実践は、私たちに引き継がれ、障がいの有無や自分が生まれ育った地区、国籍やジェンダーなどに関係なくすべての子どもや多世代が集うことのできるプレイパーク事業「あそぼパーク」として発展しています。

それは、もともと町にある「公園」という社会資源に、人的資源である「地域住民」の力を引き出すしかけをつくることで、人と人のつながりや文化を再生する開拓的な実践です。つながりが自然発生的に生まれることが難しい現在、この事業は、「すべての人に優しい町」を目標に、FOR「地域のために」から、WITH「地域とともに」に発展し、BY「地域住民が主体」として根付くことをめざしています。

しかし、すべての人に優しい町の実現にはまだまだ至りません。事例のような目に見える差別はなくなりつつありますが、社会の少数派の人々への偏見や差別はまだまだあります。路上生活者を見ると「勉強をしないとああなるよ」という親の教育、「外国籍の人だから仕方がない」などの言説は私たちの社会が克服することができていない自己責任論という見えにくい壁となって立ちはだかります。戦争、虐待、いじめ、貧困、ヤングケアラー、自死など、顕在化し自己責任が問われているさまざまな課題の背景にある問題の本質に当事者としてともに寄り添い、ときに杖として支え合える存在でありましょう。これらは私たちの隣で起きている問題です。人と人のつながりを大切にすることは、私たちにはできます。「上から目線の個別救済としての支援」＝「支配」から「共生にいきっていく社会」への転換が求められています。

最後に、「戦争で文化が奪われたのではなく、文化が衰弱したから戦争が起きた」というシュバイツァーの言葉で締めくくります。

第29回全国地域福祉施設研修会は、2025年2月14日（金）15日（土）に大阪で開催されます。ぜひ、全国の地域福祉の仲間のみなさん大阪で集いましょう。お待ちしております。



左の絵は中学生が今池こどもの家の
黒板に描いた 西野（左）と小掠先生（右）

日本地域福祉施設協議会 事務局長
社会福祉法人石井記念愛染園 大國保育園 園長
西野 伸一

研修会2部はスマイル会に任しとき。

私たちが東京と名古屋に火を付けたるわん!

12月2日・3日 第22回全国児童部会、東京国立オリンピック記念青少年総合センターに行ってきました。中型バスで職員8名スマイル会メンバー21名、合計29名満杯で出発です。朝7:00に西田辺に集合し、途中昼食を摂り14:00には会場に到着しました。第一部は、甲斐田先生をお招きして「若者とともに学ぶ 子どもの権利と社会参加」です。15時から17時半の長丁場でしたが、甲斐田先生考案の「子どもの権利カルタ」を使い、あっという間に終了しました。夕食と休憩をはさみ、第二部19時から21時。大阪の活動報告「スマイル会」の出番です。参加した子どもたちが (1)中学生以上キャンプの活動について (2)普段の会議や活動について (3)大地協行事の補助活動について (4)東京の全国研修会に向けての資金集めとスマイル会設立について 4つのジャンルに分かれて自分たちでまとめた話を80名の人たちの前で発表しました。下記には参加したスマイル会のメンバーの声が記載されています。

全国児童部会東京大会に参加した 『スマイル会 ☆ こどもたちの声』

- ・『修学旅行みたいで楽しかった。研修の時間以外はほぼ自由に過ごせた。』・『様々な人との交流ができてよかった。』
- ・『自分たちの発表は緊張したけど、周りが認めてくれたり、褒めてくれたことが嬉しかった。』
- ・『自分たちで金銭を作り出すところからスタートして、まさか東京に行けるなんて思っていなかった。実現させられて嬉しかった。』
- ・『子どもの権利について学ぶ事ができた。学校や日常ではあまり聞いた事がなかったが、詳しく、楽しく知る事が出来た。』
- ・『自分で考えるカルタは色々な意見があったので聞いているだけでも面白かった。』
- ・『来年の大阪での児童部会が楽しみになった。どんな事をして迎え入れられるかな?』
- ・『もう少し名古屋や東京の同世代の子達と交流したかった。』・『東京観光も出来たが、もう少し遊びに回りたいかった。』
- ・『自分たちの活動の自信に繋がった。』

指導員からスマイル会こどもたちへの感想

- ・上記のように様々な感想が出ていました。自分たちのしてきた事を東京や名古屋の中学生、指導員に届けよう!という目標も達成されたように感じます。
- ・発表では自分たちの声で考え、思いを会場に参加している人たちに伝える事が出来たのではないかと感じました。中学生以上の活動(スマイル会)に参加した頃はインターネットや他人の意見に合わせる事が多く見られていましたが、継続する事で自分の思いそして他者の思いや考えを尊重し合う力がついた事を実感させられました。

全員ドキドキの発表を堂々と進め、19時から21時の第二部が終了しました。大阪の子どもたちが「今の社会を変える」と、大きな声でシャウトしたのですか、新しい社会と未来を創っていくのは、間違いなくこの若者たちだと痛感しました…

研修会終了後は、みんなで大浴場に向かい、出てからは…寝てない子たちもたくさんいて、きれいな朝日を見たと話していました。部屋の清掃を終え、朝食を摂り、全員で明治神宮に参拝し、その後は集合時間まで好きな東京観光に出発しました。近辺には原宿や表参道、国立オリンピックスタジアムに神宮球場、見どころは満載です。原宿で服を買おうと10万円持ってきた子もいましたが、時間が早すぎて店がほとんど空いていない状況でした。全員出発の時間をしっかり守り、お土産を買うために一つ目のSAに寄り昼食も済ませ、一路大阪に向かいます。大きな渋滞にも巻き込まれず18時に大阪に到着しました。長い道のりを運転していただいた運転手の皆さん、研修会を企画運営していただいた皆さん、いろんな人たちの手によって、今回子どもたちはまた素晴らしい体験を得ました。名古屋の子も東京の子も、「来年は大阪に行きたい」って言うてくれました。子どもたちの目標通り、東京と名古屋の子どもたちに火を付けたようです。その分来年度の大阪大会はプレッシャーで一杯でしょう。

私たちの活動では、みんなが安心して話が進むように、必ず会の初めにアイスブレイクにグループワークを行っています。その中で、愛・健康・お金・平和・仕事・友だち・家族 etc. の中の自分で大切な優先順位を決めて、全員でグループの順位を決めていくワークがあります。ある施設で同じワークをした時に中学生が職員に話しかけたそうです。「先生、ここに俺の一番大切にしているもんがないねん」「えっ、それは何?」「居場所、先生、居場所っておっちゃ大事やねんで」「…」 社会にはまだまだ課題が山積み、苦しんでいる人たちが増幅し、悪い話ばかりが聞こえてくる昨今。しかし、安心と安全と自由な場所、居場所があれば子どもたちは自分の力で羽ばたけます。私たちの近辺には子どもたちだけでなく、社会人や女性、そして高齢者や障がいの有る人たちの安心できる居場所が少ないような気がします。一度安心と安全で自由な居場所で心を満タンにした人は、きっと平和な社会を構築するための努力が出来るのではないのでしょうか。今回の活動で、一粒の種が撒かれました。今後どうなっていくかは分かりません。しかし、きっといろんなところでこの種が花になり、枯れてもまた種を増やしてくれるでしょう。次の大阪大会に向けての子どもたちの楽しみと挑戦は続いています。

バザーを通してできた繋がり

4年ぶりの施設合同でのバザー。何が何だか分からない所からの始まり。まずは何をしたらいいの？どう進める？と悩み考えることはたくさんありましたが、相談をして話し合いを重ね少しずつ形が見え保育園ではなくグラウンドで行うことが決まりました。施設内だけではなく各施設の実行委員の方とZOOM会議を行い、どのようなバザーにしたら来てくれる人達も楽しんでくれるのかと言う話の中で、景品が貰える参加型にするのはどうかと意見がでました。他にもバザーだけではなく、フォトコンテストも同時に行い盛り上げようとしていましたが、SNSを使った発信ではInstagramの周知が難しくもあり今後の課題であると感じました。チラシを様々な場所に貼ると保育園の子ども達を始め、地域の子も達も「うわ！行きたい！！」と楽しみにしてくれていました。また、地域の方が「ここに貼ってもいいよ」「見やすい所はどこかな？」等と声を掛けてくださり協力をしてくださいました。前日準備でグラウンドに向かうと「今日なんかと思ってたわ」と地域のおばあちゃん達が待っていてくれましたが、明日と知るとそそくさと帰っていく姿もありました（笑）当日には、保育園の方だけではなくチラシを見た地域の方々、他施設の子も達等、たくさんのお客さんが遊びに来てくれました。ブース毎に各施設の方がお手伝いに来てくれていたので普段なかなかできない関わりができたのではないだろうか、大地協の中にはこのような研究会があるんだと職員が知るきっかけにもなれたのではないかと感じました。私自身も他施設に知っている方が居なかったのが今回の実行委員を経験したことにより話をする機会が出来たように思います。この繋がりを大切にしていきたいです。「楽しい」「美味しい」とニコニコ笑顔で楽しんでいる姿をたくさん見ることも出来ました。これからも子ども達が大好きなセツルの家を守るため、より良い環境で活動できるよう大地協で力を合わせていきたいです。みなさんご協力本当にありがとうございました。



社会福祉法人大和福祉会 やまと保育園子どもの家
やまとフェスタ実行委員長 笹井 唯衣

地域への願い港保育所の第一歩 ＝ 施設が地域の中で生きるって？な-に ＝

港保育所の法人名には、港民生会というタイトルがついている。72年前、地域の民生委員さんたちが中心となって地域に住む子どもたちのための保育所を設立した。我が施設が持つ精神のひとつは、民に生きる施設なのだ！

保育方針は「子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼され、地域にも愛される保育所を目指す」とある。施設長になったばかりの私は、目の前の多忙さに振り回される日々ばかり。地域の中で一体、何が出来ののだろうかと思いが重たかった。

思いつくままに、第一歩として町会費を納めて地域の仲間に入れて頂くことにした。回覧板が施設の中を回った。町会班会に参加し、お年寄りの多い班会には1階の保育室を使ってもらい喜んでもらった。直ぐ側に住まれている地域の人の顔が見える様になった。また、子どもたちの過ごす保育所を大切に思ってくださる住民の皆さんの気持ちも伝わってきた。子どもたちが日頃遊んでいる児童公園の地下に大きな貯水槽があって防災訓練での水の放水や災害時の防災無線の使い方など地域の人に教えていただいた。子どもたちに関わる事があれば声をかけてくださる。そんな小さな積み重ねが地域とのかかわりを深めて行く事であり、繋がりを持つことが出来ると思います。

若き頃、大地協の先輩に保護者会の組織作りについて相談をした事がある。“向こう三軒両隣の精神”と言われた言葉が印象的だった。難しい事では無い“火事が起これば皆でバケツを持って駆けつけるでしょ”そんな組織作りをすると良いよ！と言われた。同じ地域の中で共に生きているのだから施設職員も地域住民もみんな一緒です。お互いに相手を知る助け合いから始まるのだと学んだ。

昭和な私が職員さんへ、この思いをどう伝えようか？ まずは自らが地域で経験した実践と学びを語り、時間をこじ開けて対話するチャンスを持つと思う。保育士という専門職を選んだ私たちです。地域に住む目の前の子どもたちに向けた、素晴らしい心の種をいっぱい持っています。保育士として地域の人々の“生きる力に寄り添える”そんなステキな保育所になれたらと願う。



地域福祉に思いを馳せて
びわこセツルの家で大先輩と一緒に

社会福祉法人港民生会 港保育所
施設長 山口 千扶美

日本地域福祉施設協議会

第28回全国地域福祉施設研修会を開催して

今年の全国研修会は、東海地区がホストとなり開催することを、前回の東京での研修会の終わりの挨拶で明言した時から、名古屋キリスト教社会館で開催するという腹積もりがあった。6月に日本キリスト教社会福祉学会を是非名古屋で開催をと請われ、名古屋キリスト教社会館を会場として開催する準備が進んでいたこと、何より、福祉現場での開催は、参加者に実践の生の息吹を感じてもらえる、というと恰好良すぎますねえ。会場確保と、その費用負担に苦労しないですむというのが一番の理由ですね、それで決めました。後は、期日。祝日、土曜日は、一部事業所を除いて閉所日であるから分科会会場も確保しやすい、ということで、2月 23 日(祝・金)、24 日(土)という点は早々と決まった。後は、テーマ、内容。柴田先生が「東京の研修会を引継ぎ、福祉文化を深めるようなことが良いだろう。」という提案ですんなりと決まり、基調講演講師も内諾頂いた。

ここまで決まったことで、安心した訳ではないが、私の業務環境がどんどんと厳しくなってきた、日々即応せねばならない雑務に追われ、全国研修会の準備に頭が回らないという状態になってしまった。それは、開催日が近づくにつれ、自分の管轄下の部門の事業所の管理者が相次ぎ、心の病いなどで離脱するという状況となり一層悪化していった。焦燥感の只中で、延期させてもらおうかと真剣に考えた。それでも、分科会発題者も決まらない開催要綱素案の段階で、西野日地協事務局長、萱村東京城東地区協に相談したところ、即座に分科会発題者を当たってくれ、ぎりぎりセーフで開催にこぎつけた。

参加者数は、予定の 80 名を少し超えた 85 名。滝口先生の格調高い基調講演、分科会もそれぞれに優れた実践に裏づいた発題、それを受けての熱心な討議がなされた。比較的に小人数で、参加者がしっかりと語り合う分科会となったと思う。2日目の「語り場の広場」も、具体的なイメージのないままの提案であったが、打合せ会議で「それは、ワールド・カフェという方式だ」と提起があり、参加者が思う存分に語りあう機会となり、盛り上がった。そして、岸川会長のまとめ、阿部先生をほうふつとさせる意義深い内容、語り口で締めくくってもらった。何とか開催でき、本当に良かったと安堵である。

福祉文化を学ぶというテーマ、最初は音楽とか創作とか、表面的な事象だけを思い描いていたが、福祉サービス提供の場における支援する側、支援される側が、人として平等で尊厳ある者同士の相互作用、つながり、それを発展させて社会を福祉という観点から、誰でもが生きやすい社会に変革していく、その原動力となるのが福祉文化だという事を、多くの参加者と共有できた研修会となったのかなと思う。準備から励まし、応援してくれた日地域仲間=同志と、参加してくれた皆さんに心からのお礼を述べる。ありがとうございました。来年、大阪の地で、私たちのよってたつ理念、そこに裏打ちされた実践が更に確かめられることを願ってやまない。



東海地区地域福祉推進協会事務局

名古屋キリスト教社会館 谷川 修